

晴耕雨読

43

発行:株式会社 建設プロジェクトセンター
 建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業・地質業登録
 〒869-1234
 熊本県菊池郡大津町引水215-1(技術研究所)
 本社:熊本市/八代支店/合志営業所
 TEL:096-293-4400/FAX:096-293-4885
 E-mail:kenpro@muc.biglobe.ne.jp

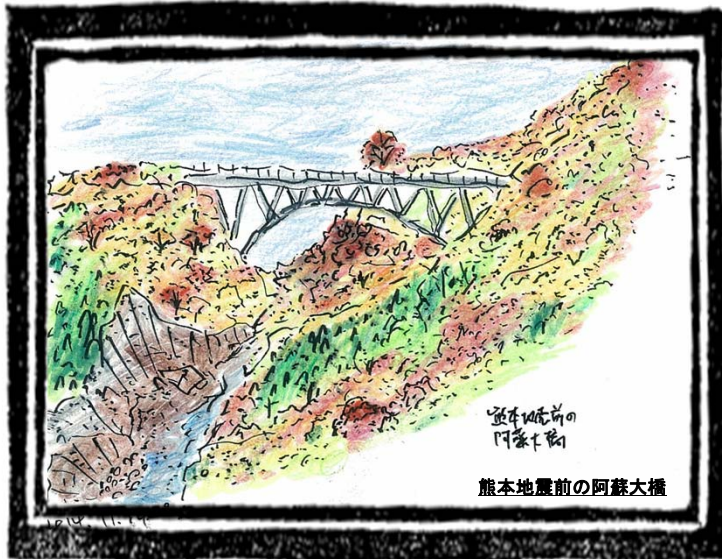


【お知らせ】 2016・3・2
 地質業登録しました。

「温告知新」は、熊本地震で被災した身近な社会インフラの一日も早い復興を心より願う四字熟語としました。阪神淡路大震災・新潟中越地震・東日本大震災など日本が置かれた宿命的な位置関係を知り・それに負けず、皆が助け合い、復興してきた日本人の叡智を、多くの人たちへ伝えたいと思います。

Vol. 43 SEP 2016 seikouudoku

熊本地震から半年を迎え、日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが如何お過ごしでしょうか？



熊本地震前の阿蘇大橋

今年4月14・16日の熊本地震により阿蘇大橋が落橋し、今も交通に難を期しております。重要な交通の結節点として、一日も早く開通する事を望みます。上記スケッチ図は2014年秋口の紅葉の綺麗な頃のスケッチ。懐かしい限りです。H/N

石工仁平の門前川眼鏡橋を見る



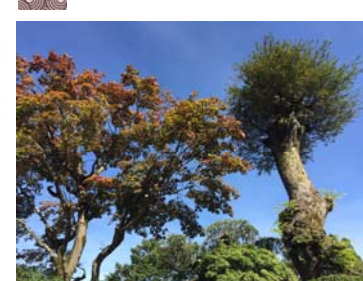
日向往還に文化5年(1808年)架設された200年を超える石橋。輪石の継目に小石をタボとして使用しているのが特色です。石工仁平の作で輪石に管理番号が刻まれています。今回の地震で影響を受けましたが、タボも機能を果たしたのではないのでしょうか？H/N

赤とんぼ



帰宅途中に突然、ピャッと声を発し、そのままトンボが車内に飛び込んできた！秋には庭先で群れを成して飛ぶトンボ。小さい頃トンボを「ひょうろう様」と言って先祖の事だと話していた祖父を思い出した。

坂梨十三里木の里程碑



熊本城の辻の札を起点に、豊後街道を東方へ十三里行った場所に坂梨宿があります。当時の利用者向け、里程碑が植えられ旅の疲れを癒す場として提供しました。その間に小小屋もあったそうです。H/N



身近な地域復興への思い

ヤマガラと触れ合う



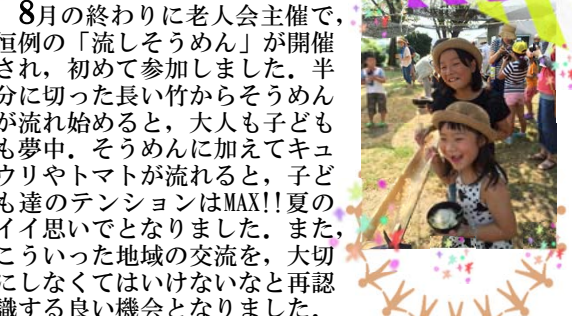
金峰山のヤマガラは野鳥ですが、人懐っこい鳥のようです。手のひらに乗せたピーナッツを食べに来ると聞いたので、半信半疑でチャレンジしてみました。手のひらに乗せて待っていると、どこからともなく近づいてきます。ヤマガラにも個性があり、すばやく飛んでいく子、手に止まり品定めをしていく子、顔を覗き込む子。人も鳥も同じですね(笑)I/O

実りの秋ですね～



朝晩はずいぶん涼しく感じられる様になって来ました。夕暮れが早い分夜が長く感じられる今日この頃です。

夏の終わりに・・・



秋の海

穏やかな松島(天草)の秋の風景である。遠くに見える赤い橋は、開通50周年を迎える天草五橋の5号橋(松島橋、パイプアーチで有名)です。N/S



身近な土木文化への思い

地震災害等では

Civil Engineering

石ざんまい ～石工修行体験～

肥後種山石工技術継承講座

先日の熊日新聞でも取り上げられた石工養成講座に私も受講者の一人として参加しました。今回経験させて頂いたのは、石材の加工・石積。現在は技術の発達で機械により石材の加工は簡単ですが、文化財で使用されている石材は石工が一つひとつ丁寧に加工して使用されており“味”がある仕上がりになっています。石材を加工・積み上げるためには非常に細かい微調整が必要となり、熟練した技術、長年の経験が極めて重要となります。師匠にご教授いただきながらどうにか加工・石積もどきまで完成いたしました。土木技術に係わるものとして、現場の苦勞を少し経験できたことは、今後に生きてくると考えます。今回の熊本地震で被災した文化財の多くに石材が多く使用されており、復旧には石工の熟練技術が必要不可欠ではないでしょうか。K/N



完成 ← ← ← 作業中

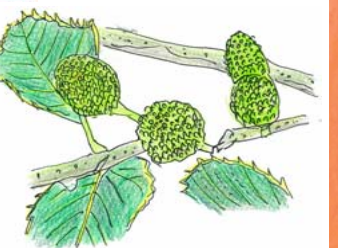
砂防ダムの役割を伝えたい



熊本地震後に緊急点検した砂防堰堤は、震源の近くにあり地盤の揺れによるひび割れや、堰堤本体の一部が数センチ移動した箇所が見つかり、緊急対策工事が実施されます。普段、人が近寄りぬ山中にも地震の爪痕は残っています。ネットで「熊本県土砂災害情報マップ」と検索すると、土砂災害が発生する可能性のある区域が確認できるので、今一度住居や職場の周辺環境を見直し、防災を意識することが重要と考えます。K/S

身近な環境への思い

ヤシャブシ(夜叉五倍子)



熊本県の奥地の標高約1,100mの五家荘に掛けた。車を止め、渓流を眺め、ふと目にしたのが左スケッチのヤシャブシ。ヤシャブシはカバノキ科ハンノキ属の落葉高木で、日本固有種なんだそうです。何だか、名前のわりには面白い実をしている。H/N

震災と暮らしの中の水と植物

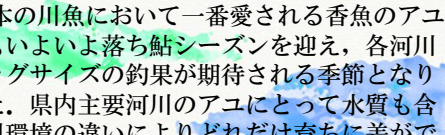
一般植物には、水に強い種と弱い種がありますが、どちらも水が無いと育ちません。水稲(米)は、1,000㎡=1反の田で(米540kg=9俵程の収穫)で年間約3,000㎡程度の水が必要らしいです。米1kg(6.7合)当りでは5.5㎡の水量になります。風呂の浴槽量(180ℓ)で換算すると約1ヶ月分必要です。毎日の米1食分(0.5合)では、風呂の浴槽5日分の水量が必要になります。会社のミカンの木は、地下流水環境のあるところで育ち、毎年美味しい実を楽ませてくれていました。雨水しか貰えない環境の植物に比べ生育環境に危機感を感じていなかったと思います。地震により水路の水が枯渇し夏場を向かえ、土壌水の大規模な環境変化を迎え、水が枯渇するなんて想像もつかなかったようで、枯死してしまいました。もう手遅れでした・・・気付かなくてごめん。これまでおいしい実をありがとう。合掌M/T



元気なみかん 枯れたみかん

Human Architectur

大物対決“鮎の背くらべ”



日本の川魚において一番愛される香魚のアユ。今秋もいよいよ落ち鮎シーズンを迎え、各河川でビッグサイズの釣果が期待される季節となりました。県内主要河川のアユにとって水質も含め河川環境の違いによりどれだけ育ちに差がでるか気になり調べてみました。県北に位置する菊池川は、阿蘇外輪山を源として菊池渓谷に代表される爽やかなコバルトブルーの水質を有する河川で、平成22年に河川中流部において体長32cm、重量354gのアユが上がっています。中央部を東西に横断して流れる緑川は、流域内の緑色岩等の影響もあってか水質は、河川名の由来である緑色をしています。漁協ではアユの大物記録はとっていませんが、冷凍庫から出されたものは、30cmを超え丸々太った大アユでした。また県南の清流日本一を誇る川辺川は、急流かつ水量も豊富で今年8月末に行われた第25回日本一大鮎釣り選手権大会では31.7cmの大物が釣れています。どの河川でもA4紙片を超えるビッグサイズの大鮎でほとんど差異なく、まるでアジ、サバの世界です。私としては6~7月頃の脂ののった体長15cm程度の初夏の若アユの塩焼きが食べたくまりました。B/I

東北仙台に思う

福岡空港から仙台までは約2時間。空港から仙台駅へは列車、途中の家々が新しい。震災復興ツアーに参加。南三陸町や石巻市、野蒜(のびる)駅などを巡る。石巻市は漫画家石ノ森章太郎の出身地で、旧北上川河口中州に萬画館があります。ここも1階までは水が来たそうです。仙台と石巻を結ぶ仙石(せんせき)線野蒜駅は、1階天井付近まで水が来たそうです。現在は山側へ移転しています。写真は国道にある津波到達地点看板。M/T



土砂災害からの復興

平成24年7月に発生した九州北部豪雨により、未曾有の土石流災害となった阿蘇坂梨地域の砂防事業に係る公園緑地計画に携わっており、豊後街道の十三里に位置し宿場町として栄えた歴史的な地域で、周囲には阿蘇山カルデラが見られます。本災害後に築造された砂防堰堤は、大量に発生した建設発生土を堰堤内部材料として有効活用した砂防ソイルセメント(INSEM工法)が特徴的で近年築造された県内最大級の砂防堰堤です。今後、復興に向けて本堰堤下流域の公園緑地整備を行い、同地域の災害や砂防の学ぶ場、地域交流ができる場、歴史文化が継承できる場とする等、地域住民の思いや地域の特色等を考慮した事業推進を行い、次世代へ引き継いでいくことが重要と感じております。T/M

お知らせ

URL:kenpro.me

H28.9に仙台市で行われました【土木学会全国大会】で筒井が発表を行いました。詳細はHPにも掲載しております!!



熊本の鋼橋(No.7)



熊本地震によりNEXCO九州自動車道(嘉島JCT~益城熊本空港IC)で大規模な道路の損傷が発生した。この付近は2度の震度7の震源付近であり、布田川断層と日奈久断層が交差する地域である。地震から5か月が経過したが下り線側はまだ突貫工事中である。写真は、高架橋近くを通った時に撮影したものである。橋梁は殆どが鋼橋(鉸桁)であるが、橋脚の上で橋同士がぶつかり合い、桁端部の座屈(つぶれ)や変形(曲り)及び支承の破壊が発生している。各橋梁は補修・補強のため大型のペント(支持材)で支持し、切替工法(損傷したウェブ及び下フランジを部分的に切断・取替える工法)で補強されていた。右側の写真には損傷した橋脚の部分補修と支承の取替が済んでいた。鋼橋はこのように部分的な切替補修・補強ができることが大きなメリットである。N/S



【後記】平成28年4月の熊本地震では県内に大きな傷跡を残しました。復興の過程をスケッチや写真で伝える機会にもなりました。水源が枯れた南阿蘇村の塩井水源地など暮らしや風景が変わった地域もあり、その現実を伝えるべきことが沢山あります。今後も皆さんへ地域復興を中心に紹介してまいります。この晴耕雨読は職員の協力で発信しています。